



自治・文化・経済部会資料

施策4-4-1 臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備

臨海部国際戦略本部
令和8年6月

資料をご覧ください上での注意事項

掲載している数値等は、6月4日（令和8年度川崎市政策評価審査委員会第3部会の開催日）時点のものであり、今後、修正・変更になる可能性があります。

施策の概要

概要

背景

取組

成果

まとめ

基本政策（1層）

活力と魅力あふれる力強い都市づくり

政策（2層）

臨海部を活性化する

施策（3層）

臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備

直接目標

臨海部の立地企業を増やし、生産活動を活発にする

主な事務事業

国際戦略拠点活性化推進事業

臨海部活性化推進事業

戦略拠点形成推進事業

臨海部大規模土地利用推進事業

サポートエリア整備推進事業

川崎駅・臨海部公共交通利用環境向上推進事業

臨海部交通ネットワーク形成推進事業

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標①

キングスカイフロント域内外の企業等マッチング件数

算 出 方 法	市の支援を通じてキングスカイフロント立地機関と域内外の企業等とのマッチングに至った件数			
指 標 の 考 え 方	キングスカイフロントの立地機関と域内外の企業等との共同研究やビジネスマッチング等の機会を創出することは、市内経済の活性化につながる取組であり、マッチング件数を指標として設定することでその成果を測ることができる。			
指 標 の 目 標 値	第2期策定時 9件(H29) ※第2期実施計画から新たに設定	—	第2期目標 35件以上(R3)	第3期目標 130件以上(R7)
目 標 値 の 考 え 方	キングスカイフロントの拠点形成を進め、立地機関の研究・事業活動が市内経済の活性化に寄与するためには、立地機関と域内外の企業等とのイノベーション創出が重要となる。そのことから、交流連携事業や国際展示会などの機会を捉え、ビジネスマッチングの創出を増加させることを目標とする。 【第3期実施計画策定時】第2期の取組結果の検証を踏まえ、目標値を変更(60件→130件)			

成果指標②

キングスカイフロントにおける取組を知っていて、評価できると回答した人の割合

算 出 方 法	市民アンケート（無作為抽出3,000人）において、「市の取組を知っており、取組を評価できる」と回答した人の割合			
指 標 の 考 え 方	がんや認知症の治療法などライフサイエンスに関する最先端の研究を行う機関等を誘致し、国際戦略拠点の形成を進めているキングスカイフロントにおける市の取組に対する評価を測ることができる。			
指 標 の 目 標 値	第2期策定時 9.6%(H29) ※第2期実施計画から新たに設定	—	第2期目標 14%以上(R3)	第3期目標 18%以上(R7)
目 標 値 の 考 え 方	キングスカイフロントにおける拠点形成を進めるにあたっては、キングスカイフロントでの取組が市民に認知され、そこで行われている研究等に理解を得られることが重要である。そのことから、「市の取組を知っていて、その取組を評価できる」人の割合を、毎年1%以上増加させることを目標とする。			

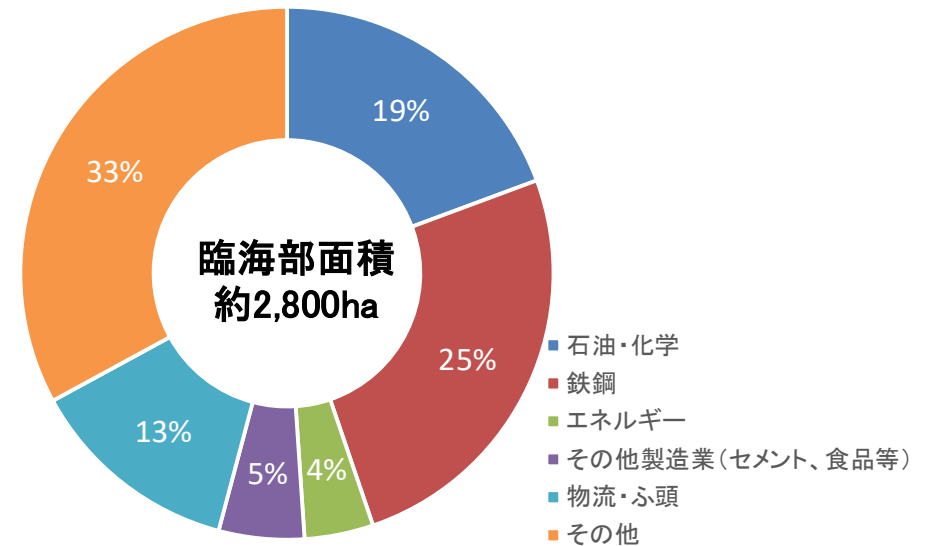
川崎臨海部の概況

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 川崎臨海部全体は約2,800ヘクタールの広さがあり、鉄鋼、石油、エネルギー、物流等の工場や事業所が集積し、コンビナートを形成しています。
- 川崎臨海部は本市の「力強い産業都市づくり」の中心的な役割を担っており、税源涵養及び多様な人材が働く場という点において極めて重要なエリアです。
- 我が国の経済を牽引する高度な産業エリアとして、産業構造の転換による社会環境の変化や、気候変動による自然環境の変化に対応し、持続的発展につながる戦略的な取組を臨海部に対する市民の認知度・理解度の向上を図りながら推進する必要があります。



川崎臨海部の土地利用(業種別の面積割合)



「川崎臨海部地区カルテ」を参考に算出

川崎臨海部の変遷①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 日露戦争後、日本の産業資本が確立し、成長拠点の東京芝浦と横浜貿易港の中間である川崎に企業が次々と立地しました。
- 1913年、実業家の浅野総一郎が、大型船が泊まれる港の整備及び川崎・横浜にまたがる臨海部の埋立に着手しました。
- 1950年代に埋立事業及び企業誘致が進展し、日本最大級のコンビナートとして日本の高度経済成長を牽引してきたエリアです。



番号	地名	埋立企業	竣工(年)
①	南渡田町	浅野総一郎	1920
②	白石町	浅野総一郎	1926
③	大川町	浅野総一郎	1926
④	扇町	浅野総一郎	1927
⑤	竹之下	浅野総一郎	1928
⑥	池上町	東亜港湾工業	1936
⑦	水江町	東亜港湾工業	1936
⑧	夜光3丁目	東亜港湾工業	1941
⑨	夜光3丁目	神奈川県	1941
⑩	水江町	神奈川県	1941
⑪	千鳥町	神奈川県	1943
⑫	夜光2丁目	東亜港湾工業	1954
⑬	千鳥町	川崎市	1954
⑭	夜光1丁目	東亜港湾工業	1960

番号	地名	埋立企業	竣工(年)
⑮	小島町	神奈川県	1959
⑯	浮島町	神奈川県	1963
⑰	扇島	神奈川県	1963
⑱	扇島	神奈川県	1973
⑲	扇島	日本鋼管	1975
⑳	東扇島	川崎市	1975
㉑	東扇島	川崎市	1979
㉒	東扇島	川崎市	1981
㉓	東扇島	川崎市	1983
㉔	東扇島	川崎市	1990
㉕	浮島1期地区	川崎市	1996
㉖	浮島2期地区	川崎市	工事中
㉗	東扇島	川崎市	工事中

「PORT OF KAWASAKI 2025-2026」を参考に作成

川崎臨海部の変遷②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 近年においては、企業の国際的な分業化の進展や事業環境の変化による生産機能の効率化などにより、産業構造の転換が進んでいます。
- 殿町地区では、いすゞ自動車の川崎工場の跡地に「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」が概成し、ライフサイエンス関連を中心とした研究開発拠点となっています。
- また、JFEスチール(株)による高炉等休止に伴い、現在はこれまでにない大規模な土地利用転換の取組が進められています。

年代	主な出来事
2004年5月	川崎区殿町に立地していたいすゞ自動車の川崎工場が閉鎖
2013年3月	いすゞ自動車の川崎工場の跡地にキングスカイフロントまちびらき
2020年3月	JFEスチール株式会社が東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止について発表
2022年3月	多摩川スカイブリッジ開通
2023年8月	JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止に伴う土地利用方針策定
2023年9月	JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止



産業構造の転換が進む川崎臨海部

国際戦略拠点活性化推進事業について①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- キングスカイフロントは、ライフサイエンス分野を中心に、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点として整備されました。約40haに及ぶエリアに、令和8年1月現在、約80機関が集積しています。
- 産業連携やエリアマネジメント支援、インキュベーション機能の充実等によるエコシステムの構築に向けた取組を推進しています。

機関数

約 **80** 機関

(令和8(2026)年1月現在)

創薬・創薬支援



再生医療



殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント



就業者数

約 **1,700** 人
健康・医療・福祉・環境分野
研究者約 **1,000** 人
博士号取得者
約 **400** 人

医療機器



アカデミア/研究所



国際戦略拠点活性化推進事業について②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 計画期間の主な取組として、キングスカイフロントにおける①域内外の企業等のマッチング、②高度な技術を持つ研究者・企業の集積の推進などを実施しました。

①域内外の企業等のマッチング

産学・産産連携など拠点活動の活性化を通じた地域産業への波及を促進するため、域内外の企業等のマッチングを実施



キングスカイフロントサイエンスフォーラム 企業展示ブース(R7.12)

マッチング件数の推移

R4	R5	R6	R7
117	128	147	171

②高度な技術を持つ研究者・企業の集積の推進

川崎市産業振興財団にてシェアラボ及びシェアオフィスを開設し、高度な技術を持つ研究者企業の集積を推進



シェアラボ「iCONM in collaboration with BioLabs」

インキュベーション施設への入居企業数の推移

R4	R5	R6	R7
18	26	34	38

戦略拠点形成推進事業、臨海部大規模土地利用推進事業について

概要 背景 取組 成果 まとめ

- JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区における高炉等休止に伴い、約400ヘクタールの広大なフィールドにおいて、地域の持続的发展につなげ、我が国の課題解決に資する公共性・公益性の高い効果的な大規模土地利用転換の取組を推進しています。

●南渡田地区（土地利用範囲：約52ha）

【取組の方向性】

- 「マテリアルから世界を変える産業拠点」の形成

南渡田地区

南渡田

池上町

扇町

水江町

周辺地区

扇島北

扇島南
(横浜側)

扇島南
(川崎側)
222ha

先導エリア※

扇島地区

●周辺地区（土地利用範囲：74ha）

【取組の方向性】

- リサイクルをはじめとする産業の集積を活かし、臨海部の持続的发展に寄与

●扇島地区（土地利用範囲：約280ha）

【取組の方向性】

- カーボンニュートラルを先導、首都圏の強靱化、新たな価値や革新的技術を創造、最先端の未来空間が体験できるエリア

※ 先導エリア（約70ha）

- ・既存構造物が少なく、早期の土地利用転換が可能
- ・先導エリア以外の開発につながるような取組を推進

戦略拠点形成推進事業について①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 南渡田地区では、大規模土地利用転換の先鞭として、クライメートテック分野への社会実装をゴールとした「マテリアルから世界を変える産業拠点」の形成を目指した段階的な開発を推進しています。
- 高度かつ最先端の研究開発や新たな価値の創出を行う新産業拠点の形成に向けて、協議会等を通じた拠点の価値を高めるエコシステムの構築や研究開発拠点に相応しい土地利用実現に向けた基盤整備等の事業を推進しています。

南渡田地区拠点整備基本計画に基づき、次の取組を推進

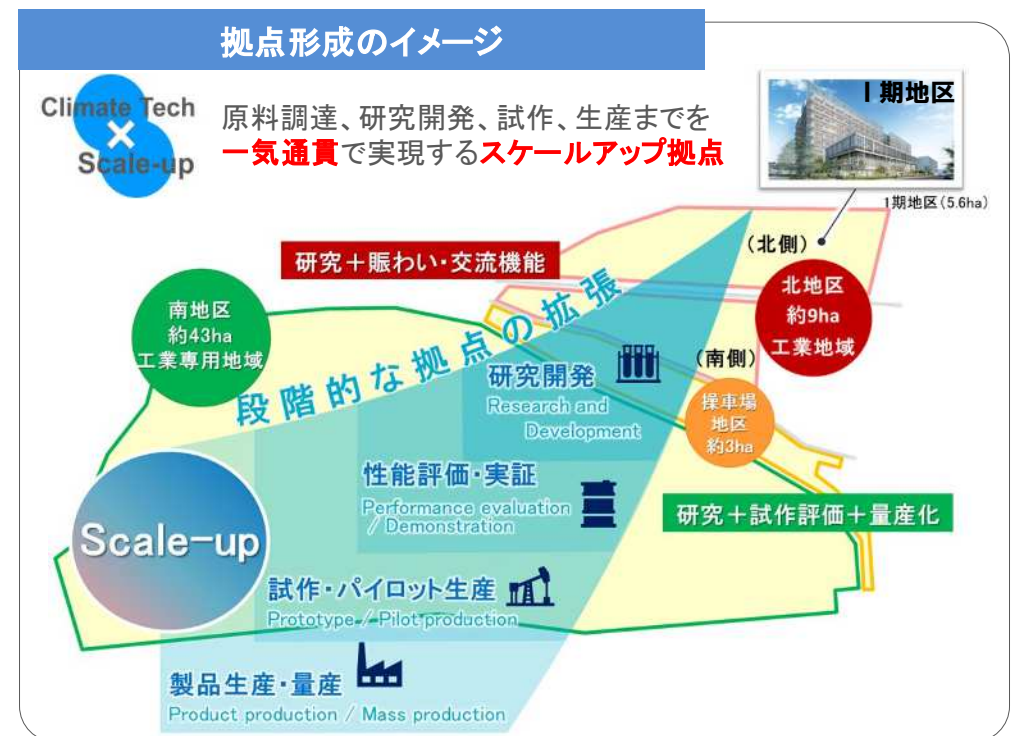
■ 民間開発と連動した周辺道路等の基盤整備

■ 延床約10万㎡に及ぶ大規模な賃貸型R&D施設の整備に併せ、拠点の核となる企業や将来性の高い企業の戦略的な誘致を実施

■ 拠点の自主的な運営に向け、南渡田地区の独自性や持続性を踏まえた将来像イメージ・成長戦略をステークホルダーと検討

〈検討項目〉

- ① 新産業拠点形成に向けた中長期シナリオ
(グローバル接続／人材育成／インフラ整備／資金調達等)
- ② I 期地区(北地区北側)における導入機能
(I 期地区における活動イメージ、提供機能の実装・運営計画等)



戦略拠点形成推進事業について②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 計画期間の主な取組として、南渡田地区拠点整備基本計画に基づき、①拠点形成の具体化に向けた協議会の開催、②企業誘致等に向けた関係機関へのヒアリング等、③北地区北側のまちびらきに向けた取組などを実施し、新産業拠点の形成が進展しました。

①拠点形成の具体化に向けた協議会の開催 ②企業誘致等に向けた関係機関へのヒアリング等

協議会開催を通じて、拠点に必要な導入機能やイノベーション推進の枠組み、各主体間の役割・連携方策等、拠点形成の具体化が進展した。

また、企業や国の研究機関、アカデミアなどに対してヒアリング等を実施し、研究開発拠点への誘致や入居に向けた調整を進めた。

①協議会や②ヒアリング等の開催回数の推移

	R4	R5	R6	R7
①	0回	3回	7回	7回
②	85件	108件	114件	173件

③北地区北側のまちびらきに向けた取組

I 期地区として先行整備を進める北地区北側の約5.6haで、令和9(2027)年度まちびらきに向けた取組を推進

- ・令和6年 4月 解体工事着手<事業者>
- ・令和7年10月 川崎駅扇町線詳細設計着手<市>
- ・令和7年12月 研究棟B工事着手<事業者>
- ・令和8年 3月 研究棟A工事着手<事業者>

I 期地区(北地区北側)イメージパース

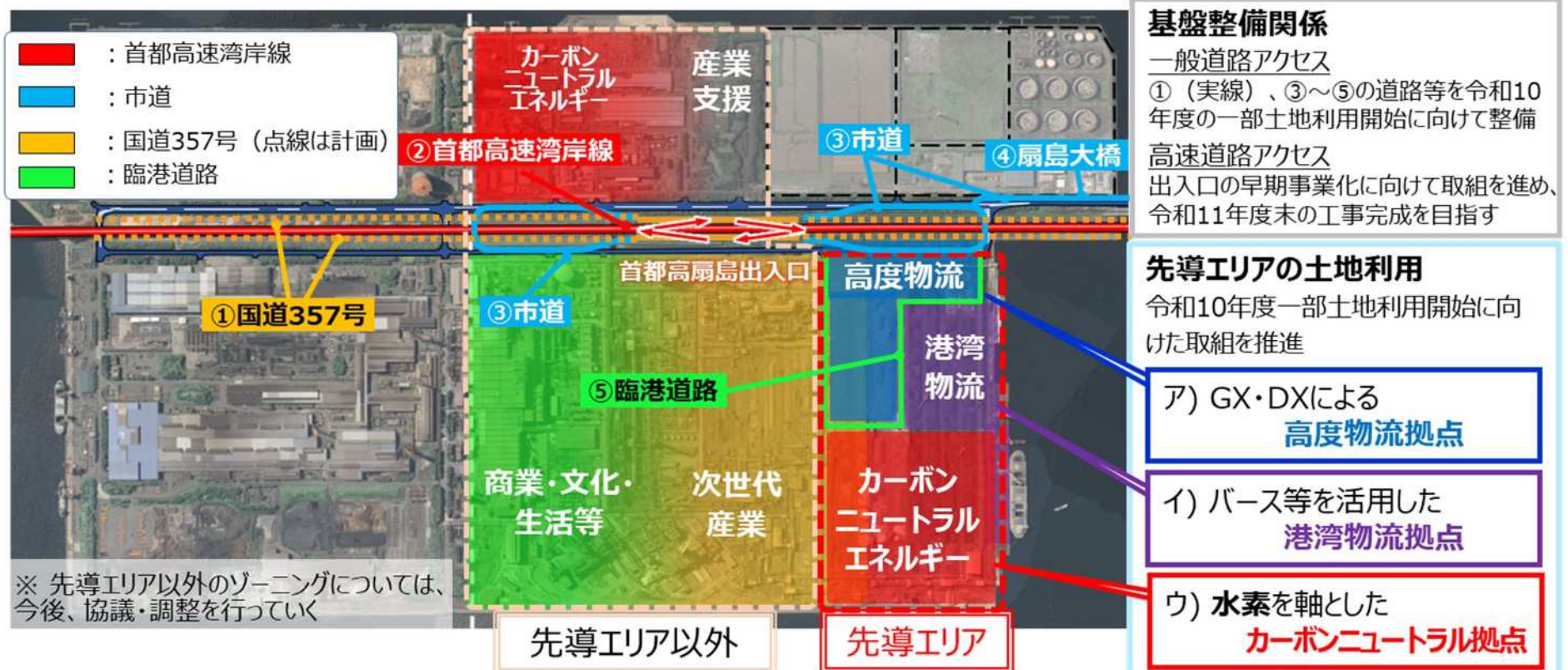


イメージパース内の周辺建物は、Vexcel Imaging US社の都市モデルを使用しています

臨海部大規模土地利用推進事業について①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 扇島地区では、カーボンニュートラルの実現と同時に、次代の柱となる新たな産業の創出を目指す取組を推進しています。
- 先導エリアにおいては、カーボンニュートラル拠点、高度物流拠点、港湾物流拠点の形成の取組を推進しています。
- また、扇島地区へは公道からアクセスできないことから、令和10年度の先導エリアの一部土地利用開始に向けて、道路等の基盤整備の取組を推進しています。



臨海部大規模土地利用推進事業について②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 計画期間の主な取組として、①各種方針・計画の策定、②企業・関係機関・学識経験者等へのヒアリング、③先導エリアの土地利用開始に向けた取組を推進しました。

①各種方針・計画の策定

【令和5年度】JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止に伴う土地利用方針

扇島地区等の果たすべき役割、土地利用の方向性、導入機能、基盤整備に関する本市の考え方などを定めたもの

【令和7年度】扇島地区基盤整備等推進計画

本市の主な役割である道路などの基盤整備について、令和10年度の先導エリア一部土地利用開始に向けて方向性を定めたもの

②土地利用方針の実現に向けた導入機能等の検討

企業、関係機関、学識経験者等へのヒアリング等を通じて導入機能等の検討を実施し、早期の土地利用転換に向けた取組を推進

ヒアリングの実施回数の推移

R4	R5	R6	R7
90件	117件	120件	92件

③先導エリアの土地利用開始に向けた取組の推進

【カーボンニュートラル拠点】

- ・令和7年度に事業者が水素受入基地の建設工事に着工

【港湾物流拠点】

- ・令和6年度の港湾計画改定で公共ふ頭と位置付け
- ・港湾施設などの計画的な整備に向けた取組を実施

【高度物流拠点】

- ・事業者決定に向けて地権者と協議調整を推進

【基盤整備】

- ・令和10年度の一部土地利用開始に向けた整備推進のため、令和6年度に、市と地権者の協力事項、役割分担等を定めた協定を締結
- ・一般道路・高速道路アクセスの整備に向けて取組を推進



扇島地区土地利用概成時のイメージ

サポートエリア整備推進事業について

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 臨海部の機能強化に向けて、交通環境や地域環境の向上に寄与するサポートエリアの整備を推進します。
- 計画期間の主な取組として、①大型車の路上駐停車の抑制対策、②緑道内に公園施設(コンビニ)の設置及び緑道の再整備、③大師橋駅駅前交通広場の整備などを実施しました。

①大型車の路上駐停車の抑制対策

【R5年度、R7年度】

梶橋水江町線沿線にて大型車駐車を整備(13台分)

▶ 大型車の路上駐停車減少による道路交通の円滑化

②緑道内に公園施設(コンビニ)の設置及び緑道の再整備

【R5年度】

池上新町南緑道にてPark-PFIを活用した公園施設(コンビニ)を設置したほか緑道を再整備

▶ 不法投棄の減少などによる地域環境の改善及び景観の向上

③大師橋駅駅前交通広場の整備

【R7年度】

大師橋駅駅前に、路線バス、タクシー、一般車等が利用できる新たな駅前交通広場を整備

▶ 朝夕の浮島方面行きバスが増便



川崎駅・臨海部公共交通利用環境向上事業について

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 臨海部への公共交通によるアクセス向上に向け、川崎駅東口をはじめとした鉄道駅周辺や輸送サービス等における利用環境等の向上に資する取組を推進しています。
- 計画期間の主な取組として、①川崎駅東口駅前広場のバス並び列改善、②川崎駅周辺の案内誘導標示の調査・検討を実施しました。

①川崎駅東口駅前広場のバス並び列改善

【R7年度】恒常的に混雑が発生している川崎駅東口駅前広場の利用環境向上に向けて、バス並び列改善の取組を推進し、実証実験の実施により、混雑状況の改善に効果があることを確認

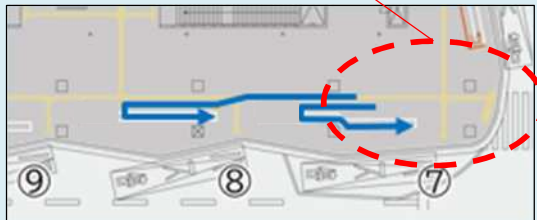
②川崎駅周辺の案内誘導標示の調査・検討

【R5年度～R7年度】バス系統数やのりばの数が多い川崎駅でのスムーズな乗り換えに向けて、案内誘導標示の調査、課題の整理及び対応案の検討を行うなど、輸送サービスの快適性向上に向けた取組を推進

バス並び列改善の取組(令和8年1月～2月実証実施)

【取組前】混雑が発生

バス並び列、信号待ち、歩行者が
錯綜し混雑が発生

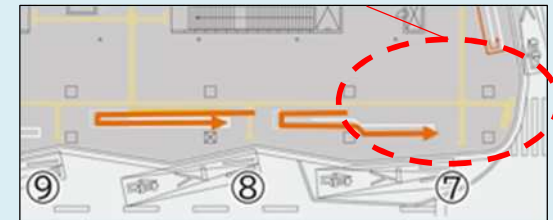


【取組】路面標示の改修



【取組後】混雑が改善

バス並び列の変更により、
混雑の改善を確認



臨海部交通ネットワーク形成推進事業について

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 臨海部の持続的な発展を支え価値を向上させる交通機能の強化をめざし、交通拠点及び基幹的交通軸の整備とともに、交通結節機能の強化と末端交通の充実を図り、臨海部への円滑な移動を実現する新たな交通ネットワークの形成に向けた取組を推進しています。
- 計画期間の主な取組として、①基幹的交通軸の整備(BRTの導入)、②企業送迎バス乗降場の整備、③「臨海部の交通機能強化に向けた実施方針」の改定を実施しました。

①基幹的交通軸の整備(BRTの導入)

連節バスによるBRT運行を開始

【R4年度】川崎駅～水江町(川崎市初)

【R6年度】川崎駅～エリーパワー前

▶ BRT: 平日は54便/日が運行



②企業送迎バス乗降場の整備

【R5年度】大師橋駅駅周辺の国道409号に整備完了

【R6年度】企業送迎バス乗降場の運用を開始

▶ 9社が利用(R8年4月現在)



③「臨海部の交通機能強化に向けた実施方針」改定

【R7年度】

臨海部の持続的な発展につなげるため、臨海部における「人の移動を支える交通ネットワークの形成」に加え、「交通混雑に対応する道路機能強化」についての取組を示すものとして改定を実施



臨海部活性化推進事業について

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 「臨海部ビジョン」に示す「目指す将来像」の実現に向け、臨海部全体の活性化を図る戦略的マネジメントを推進しています。また、企業から活動拠点として選ばれ続け、市民から誇りに思われるようなエリアとなるよう、イメージの確立に向けた戦略的なブランディングを推進しています。
- 計画期間の主な取組として、①投資促進制度等の運用、②学校等を対象とした臨海部企業などへの見学会等を実施しました。

①投資促進制度等の運用

立地企業の設備投資を後押しする「川崎臨海部産業競争力強化促進補助金」等の利用等に関する相談を実施し、令和4～7年度の4年間で、合計5件の交付を決定

補助金の交付決定実績

R4	R5	R6	R7
0	0	4	1

②学校等を対象とした臨海部企業等の見学会

川崎臨海部に関する認知度向上等を目的として、学校等を対象に臨海部企業などへの見学会等を実施

学校を対象とした見学会の開催実績

R4	R5	R6	R7
9	10	7	9



小学生の見学会の様子



町内会の見学会の様子



高校生の仕事体験の様子

成果指標①の達成状況(目標達成)

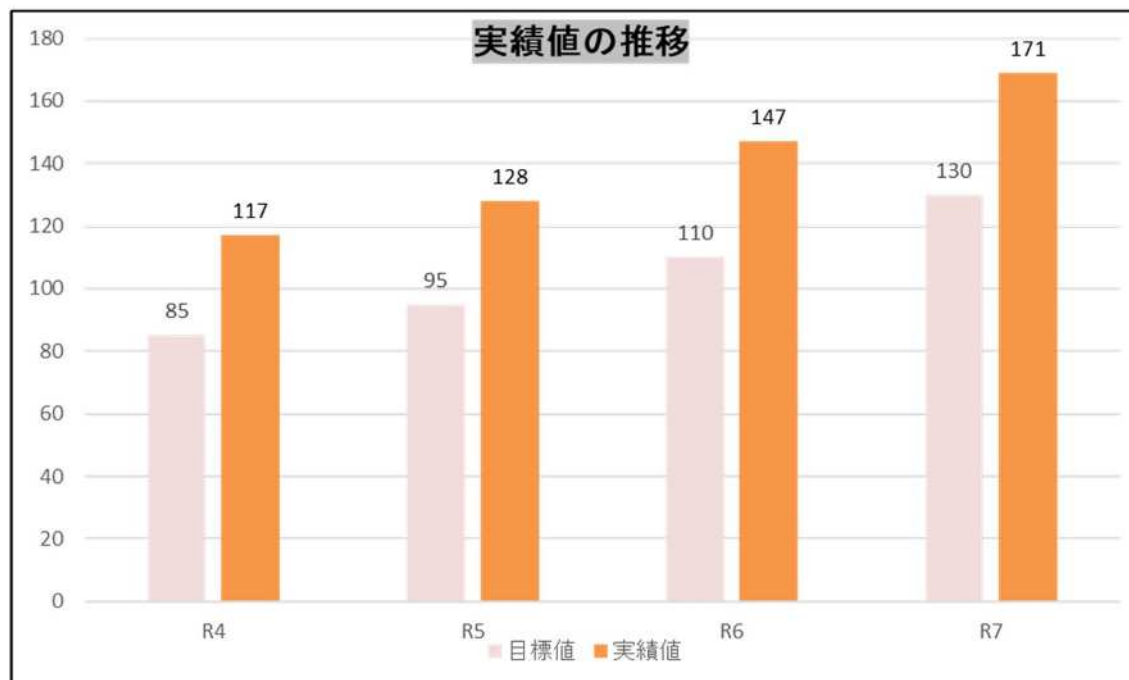
概要 背景 取組 成果 まとめ

キングスカイフロント域内外の企業等マッチング件数

- 「キングスカイフロント域内外の企業等マッチング件数」は、令和7年度の実績値が171件となり、目標を達成しました。(企業等のニーズやシーズに基づき、「(将来的な事業化を期待して)企業等同士を引き合わせ、面会及び協議等を行った件数」を以て、「マッチング件数」として計上)

	R4	R5	R6	R7
目標値	85件	95件	110件	130件
実績値	117件	128件	147件	171件

(単位:件)



成果指標②の達成状況(目標未達成)

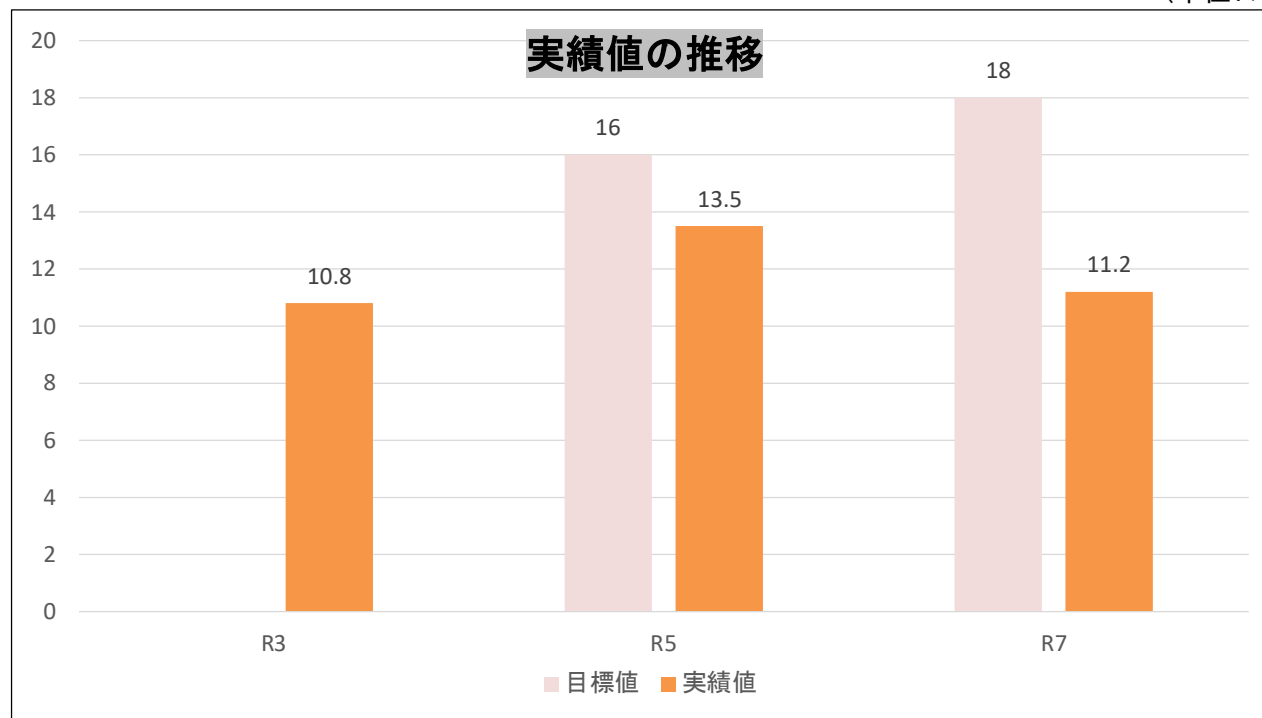
概要 背景 取組 成果 まとめ

キングスカイフロントにおける取組を知っていて、評価できると回答した人の割合

- 市民アンケートにおいて「キングスカイフロントにおける取組を知っていて、評価できる」と回答した人の割合は、令和7年度は11.2%となり、令和3年度の10.8%から0.4ポイント上昇したものの、令和5年度の13.5%から下降に転じた上、目標を下回りました。

	R3	R5	R7
目標値		16%	18%
実績値	10.8%	13.5%	11.2%

(単位: %)

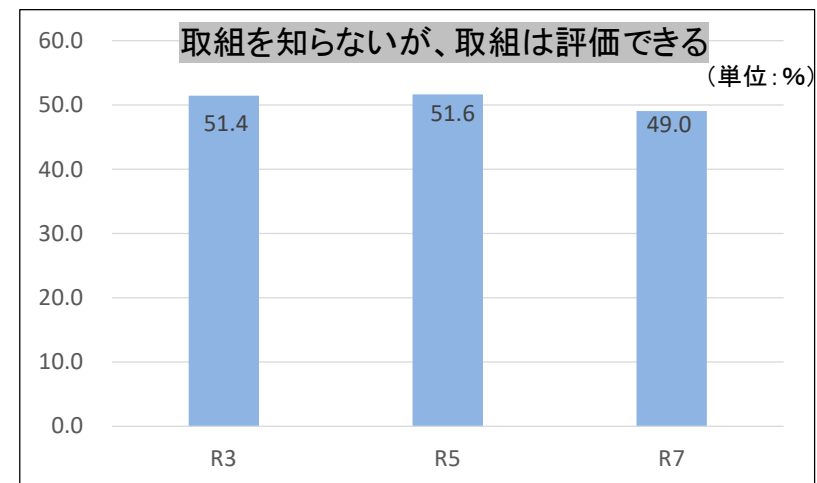
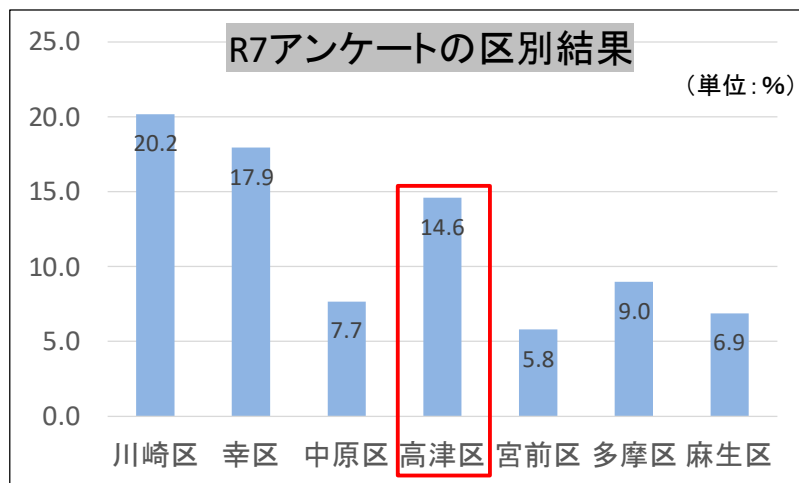


成果指標②の成果分析

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

キングスカイフロントにおける取組を知っていて、評価できると回答した人の割合

- 居住区別にみると、目標値である18%を上回っているのは、川崎区のみであり、臨海部から距離が離れている北部の区では、低い数値になっています。「脱炭素アクションみぞのくち」などの取組を通じて区民の環境意識の醸成が図られていて、同取組の一環として臨海部への見学会が行われている高津区では14.6%と近隣の区と比較して高い数値になりました。
- 「取組を知らないが、取組は評価できる」と回答した割合が、令和3年度から令和7年度にかけていずれも約50%となっていることから、取組内容は一定程度肯定的に評価されている一方、取組の認知度に課題があることが伺えます。
- アンケート結果を踏まえ、南部だけでなく市域全体の市民が臨海部に対して誇りや期待感を醸成できるよう、社会的な課題の解決と経済発展に貢献する優れた活動を戦略的にPRするとともに、次世代を担う子どもたちに向けたキャリア形成支援の取組を進める必要があります。



その他成果(数値で把握できる補足指標)

概要 背景 取組 成果 まとめ

「キングスカイフロント 夏の科学イベント」参加者数

- 毎年8月(1日間)に、主に小学生を対象として、「キングスカイフロント 夏の科学イベント」を実施しています。イベントでは、20以上の立地機関が、科学実験や手術体験などを行っており、科学や医療分野への理解と興味・関心を高め、将来の人材育成に資する取組となっています。
- 参加者数は下図のとおりで、令和5年度以降は、毎年500人超となっています。
- 参加者からは、体験を通じて科学や医療分野への関心が高まったとの肯定的な意見が多く寄せられています。

参加者数

年度	R4	R5	R6	R7
人数(人)	233	502	643	581

イベントの様子



DNA抽出体験
【アズワン株式会社】



クリーンルーム体験
【ナノ医療イノベーションセンター】

その他成果(数値で把握できる補足指標)

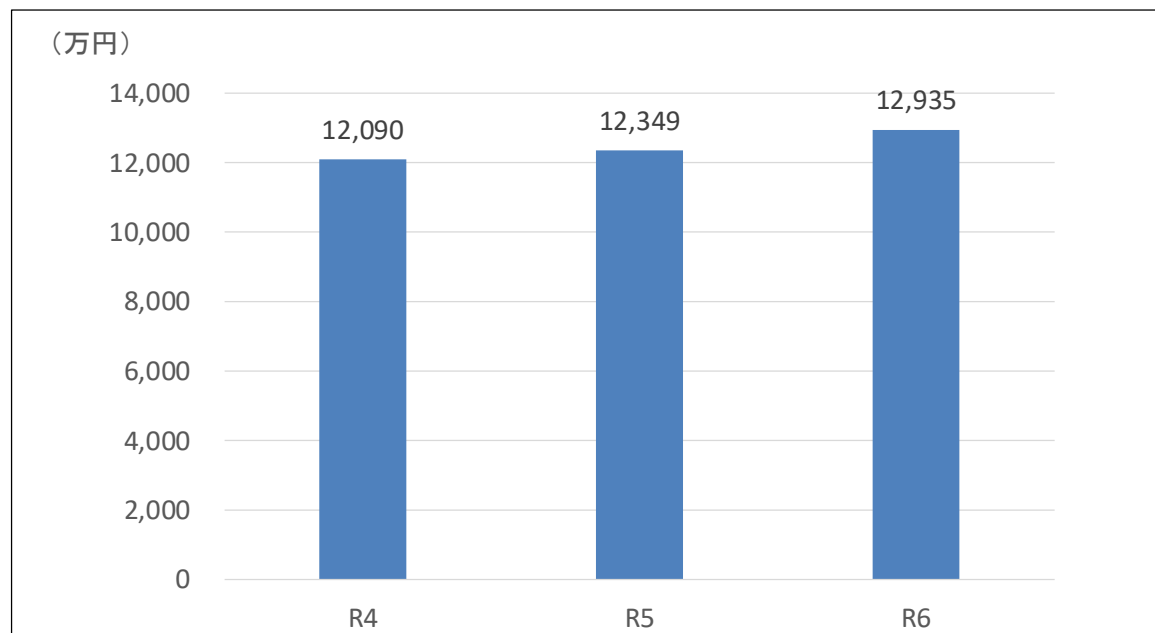
概要 背景 取組 成果 まとめ

川崎区従業者1人あたりの製造品出荷額

- 経済構造実態調査(製造業事業所調査)結果より「川崎区従業者1人あたりの製造品出荷額」を算出しており、川崎臨海部における立地企業の産業競争力の強化を測る指標としております。
- 金額の推移は令和4年度以降上昇しており、このことから臨海部に立地する製造業において、生産性の向上や生産能力の増強が図られていることが推測できます。

実績値

年度	R4	R5	R6	R7
金額(万円)	12,090	12,349	12,935	8月頃判明



その他成果(定性的な成果)

概要 背景 取組 成果 まとめ

臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備に向けた取組

- 南渡田地区については、研究開発を中心とした産業集積を推進するため、市と主要関係者で協議会(幹事会)を立ち上げ、拠点のテーマや企業誘致の方向性、R&D機能のあり方に関する協議(3回)を実施し、北地区北側の拠点整備の事業に着手するなど、令和9年度の一部まちびらきに向けた取組が進捗しました。
- 扇島地区については、先導エリアにおける令和10年度の一部土地利用開始に向け、水素等供給拠点形成の工事に着手するなど、大規模土地利用転換の取組が進捗しました。
- 池上新町南緑道にてPark-PFIを活用した公園施設(コンビニ)を設置するとともに緑道の整備を行ったほか、皐橋水江町線沿線にて大型駐車場を整備することにより、臨海部の交通環境や地域環境の向上が図られました。
- 臨海部への円滑な移動を実現する新たな交通ネットワークの形成に向け、2路線において連節バスによるBRT運行を開始したほか、大師橋駅周辺において、国道409号に企業送迎バス乗降場を整備するなど、交通機能の強化が図られました。
- 学校等を対象に臨海部企業などへの見学会を実施することにより、川崎臨海部に関する認知度向上等が図られました。

施策の達成状況

概要 背景 取組 成果 **まとめ**

施策の達成状況

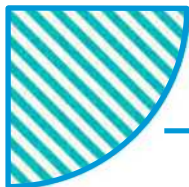
B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

理由

- ① 配下の事務事業については、いずれもほぼ目標どおり達成できました。サポートエリア整備推進事業においては、大師橋駅駅前交通広場整備について、京浜急行大師線連続立体交差事業の作業ヤード引渡しの遅延に伴い、令和6年度の完成、供用開始に至りませんでした。引き渡し時期に合わせて工事発注を行い、令和7年度末に全面利用を開始しました。
- ② 成果指標である「キングスカイフロントにおける取組を知っていて、評価できると回答した人の割合」は、前回の令和5年度から2.3ポイント下降し、目標を達成することはできませんでしたが、次世代を担う子どもたちが科学を始めとする様々なものへの興味や関心を高めることができるよう、川崎臨海部の立地機関によるイベント開催や学校での出前講座など、臨海部の科学技術等に触れることができる機会の創出に取り組むことで、臨海部の認知度向上に向けて一定の進捗がありました。
- ③ また、「キングスカイフロント域内外の企業等マッチング件数」については、目標を達成していることから、市内経済への活性化などに一定の成果がありました。

【施策の達成状況区分】

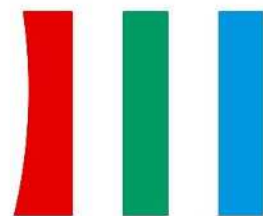
- A 順調に推移した(目標を達成した)、**B 一定の進捗があった**(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)
C 進捗が遅れた(1期策定時を下回るものが多くあった)、**D 進捗が大幅に遅れた**(1期策定時を大幅に下回った)



今後の方向性

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- ① 我が国の経済を牽引する高度な産業エリアとして、産業構造の転換による社会環境の変化や、気候変動による自然環境の変化に対応しながら、持続的に発展していくため、新産業創出を促進する研究開発拠点の形成、社会課題の解決等に資する大規模土地利用転換の推進、臨海部の交通機能強化に向けた取組等を進めていきます。
- ② 成果指標である「キングスカイフロントにおける取組を知っていて、評価できると回答した人の割合」が目標を達成できておらず、市民アンケートの結果分析により、北部の区の積極的回答の割合が低いことが明らかになっています。取組の成果が表れるまでに一定の期間を要することから、幅広い市民層を対象として、臨海部を「見て」「知って」「理解して」もらえるよう立地企業等への見学会を実施するとともに、次世代を担う子どもたちの科学への興味や関心を高めるため、「キングスカイフロント 夏の科学イベント」などの取組を引き続き実施し、臨海部の認知度・理解度の向上を図っていきます。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市